

「治療薬マニュアル 1999 CD-ROM 版」

自治医科大学学長	高久	史磨	監修
国立国際医療センター総長	鴨下	重彦	
朝日生命成人病研究所所長	菊池	方利	編集
東京都済生会中央病院副院長	北原	光夫	
通商産業省診療所所長	関	顕	
国立国際医療センター第1消化器科医長	松枝	啓	

札幌医科大学教授・地域医療総合医学講座

山 本 和 利

日常診療を行う上で次のような事例に遭遇したとしよう。“内頸動脈閉塞の所見はないが、一過性脳虚血発作(TIA)を起こした65歳の女性に3か月前からaspirinを処方している。先週、2度目のTIAを起こした。患者は発作の再発を懸念し、もっと予防効果のある薬があれば、変更してほしいと申し出た”。担当医はどのように対応したらよいだろうか。

普通は簡便に解決しようとして、先輩や同僚の医師にTIA再発予防に効果のある薬は何か尋ねる。また、教科書や製薬会社のパンフレットを参考に薬を検討することだろう。時間に余裕があるときには、最新のハリソン内科書に当たってみるかもしれない。それには“TIA再発予防にはaspirin, dipyridamole, ticlopidine などがあるが、1日300mg以下のaspirin内服が最も有効である。dipyridamoleには脳血栓を予防するというevidenceがない。ticlopidineとaspirinの比較が行われているが、どちらがよいかわく評価できていない。ticlopidineには白血球減少、下痢、皮疹などの副作用があるので、aspirinが禁忌のものにのみ内服させるべきである”と書かれている。医師も患者も再発の懸念を漠然と感じながらもaspirinを継続することになるのでなかろう

か。

このような流れの中で、「治療薬マニュアル 1999 CD-ROM 版」は簡単に薬の情報を取り出すことができるという点で大変便利である。この例で述べると、“aspirin”で検索するとその商品名、適応、禁忌、作用、適応、相互作用、慎重、動態、注意、副作用、と情報を得ることができる。最後に解説としてaspirinの使用目的、使用法、使用上の注意、副作用と対策が、解説をした者の署名入りで記載されている。ticlopidineについても同様なことが言える。検索する際にフル・スペルを入力しなくても“ticlo”と入力しただけで表示される。使用を前提にして薬剤情報を手に入れるためには本よりも有用と思われる。

では、この事例に戻って、このCD-ROM版で得られた情報からticlopidineとaspirinのどちらかに決定できるだろうか。残念ながら、“この1冊でどんな問題も即解決”とはならない。例えば、“～の副作用がまれに起こる”と記載されていても、その具体的な頻度がわからないとevidence-based medicine (EBM)で用いる指標に変換できないからである。本書が添付文書の記載に基づいている以上やむを得ない面もあるが、臨床上有用な情報はプラスアルファで更に追加してほしいものであ

る。

これまでは、EBMを教えるとき薬剤情報を取り寄せる面倒にかまけて口頭で述べたり省略していたが、このCD-ROMによって必要なところを加工して文章化して学生に配布でき、その点では大変有用である。

改訂する際の希望として、値段は高くなっても構わないので、ハリソン内科書CD-ROM版の薬剤検索ソフトのように、該当する疾患にある薬剤を用いたときの死亡率や合併症発生率についての絶対リスク減少やNNT(number need to treat)を表示している文献を記載してもらいたい。EBMでは、この事例の場合TIA再発予防に効果のある治療法を知るためにコンピュータで文献検索を行う。例えば、stroke, therapy, randomized controlled trials というキーワードで文献検索をする。文献を批判的に吟味し、適切なものをダウンロードすることになる。このような過程で「治療薬マニュアルCD-ROM版」が、薬剤情報と一緒に適切な文献をも表示してもらえればコンピュータによる文献検索の手間が省けて、EBMにとってなくてはならない優れ物になるであろう。

● 1999 定価(本体3,900円+税)
〒400

医学書院 刊(☎03-3817-5657)